

JAPIC NEWS

JAPIC 一般財団法人 日本医薬情報センター
Japan Pharmaceutical Information Center

Contents

巻頭言

「健やかな未来をつくる」

一般財団法人 化学及血清療法研究所(化血研) 理事 臨床検査部門担当 菅原 敬信 … 2

インフォメーション

医薬品集発刊!

◇JAPIC「医療用医薬品集2016」CD-ROM付…………… 4

◇JAPIC「一般用医薬品集2016」…………… 4

7月末発売!

「JAPIC医療用・一般用医薬品集インストール版2015年7月版」…………… 4

「JAPIC OTC医薬品CD-ROM 2015年7月版」…………… 4

コラム

くすりの散歩道 No.88 「徒然なるままに…」

(一財)日本医薬情報センター 医薬文献情報担当 鹿庭 正昭 … 5

最近の話題 「「病いの語り」の教育的活用」

東京理科大学 薬学部 教授 後藤 恵子 …… 6

連載コラム

知っておきたい! 「医薬品を巡る最近の政策」

北里大学大学院薬学研究科 臨床医学(医薬開発学) 准教授 成川 衛 …… 8

トピックス

JAPICサービスの紹介

医薬品と対応病名検索システム“病名ナビ”…………… 10

「平成27年度JAPICユーザ会」を開催しました …… 12

「理事会」「評議員会」の概要報告…………… 13

外国政府等の医薬品・医療機器等の安全性に関する規制措置情報より-(抜粋)…………… 14

図書館だよりNo.302 情報提供一覧…………… 15

8

2015 | No.376

健やかな未来をつくる

一般財団法人 化学及血清療法研究所 (化血研)
 理事 臨床検査部門担当
 菅原 敬信 (Sugawara Keishin)



化血研は、今年、創立70年を迎えます。1945年12月26日、同年7月の大空襲で灰燼と帰した熊本市に設立されました。設立時の寄附行為（「本財団は、生物学的製剤等の研究・開発を行うと共に、それらに応用した人体用並びに動物用の医薬品等の製造と供給に従事し、広く公衆衛生の進歩を図り、兼ねて自然科学の昂揚に資することを目的とする。」）は、70年間変わることなく我々の行動指針、バックボーンになっています。化血研の製品第一号は“痘そうワクチン”です。爾来、人体用ワクチン、動物用ワクチン（1950年～）、血漿分画製剤（1966年～）と活動の幅を広げて今日に至っています。1977年には、以下に紹介する「新生児マススクリーニング検査」を開始しています。

「新生児マススクリーニング検査」は、生まれつき特

定の酵素が欠損する、あるいは特定のホルモンが過不足となるなどの結果、知的障害や身体の発育に障害を起こす遺伝性の疾患等について、早期発見・早期治療により発症を未然に防止して心身の障害を予防することを目的として行うものです。わが国では1977年10月、5疾患を対象として国の事業として開始されました（その後、各自治体へ移管）。2000年代になると質量分析計を用いた検査法の研究が始まり、関係者の献身的な努力と国への働きかけの結果、ほぼ全ての自治体で2013年4月より公費による検査が開始されました。質量分析計の導入で検査項目は一気に拡大し、現在、27疾患の検査が可能になっています（表1）。2014年3月までの36年間で4,665万人の新生児が検査を受け、1.9万人の患児が発見されています（表2）。

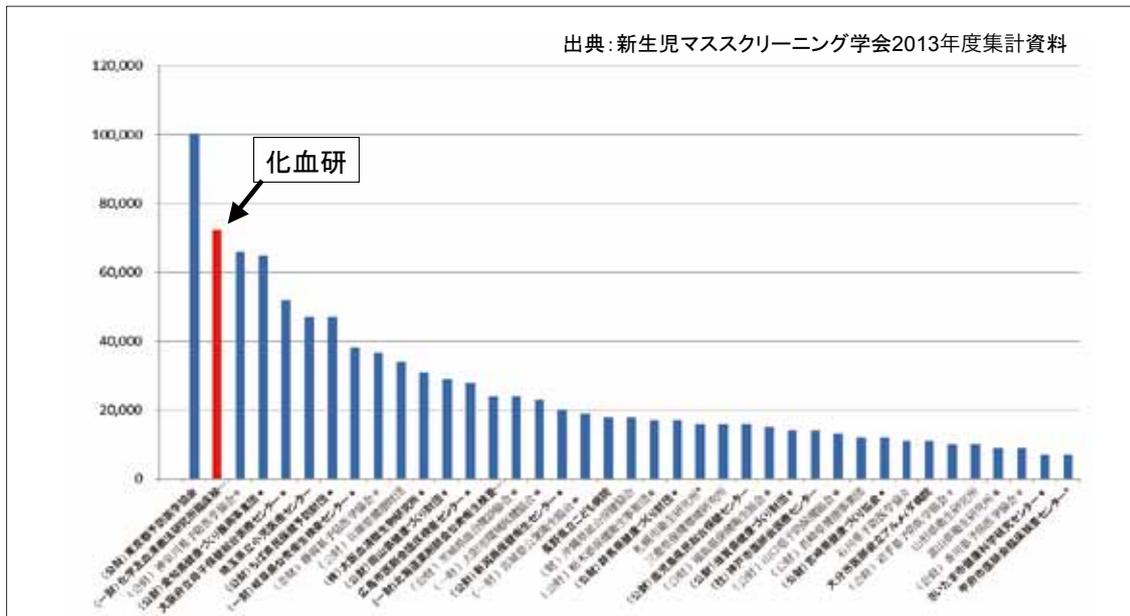


図1 全国の検査機関別受託件数

表1 化血研で実施可能な新生児マススクリーニング検査の対象疾患

| | |
|---|---|
| アミノ酸代謝異常 1. フェニルケトン尿症 2. ホモシスチン尿症 3. メーブルシロップ尿症 4. シトルリン血症 I 型 5. アルギニンコハク酸尿症 6. シトルリン欠損症 7. 高チロシン血症 8. 高アルギニン血症 | 脂肪酸代謝異常 17. MCAD 欠損症 18. VLCAD 欠損症 19. TFP/LCHAD 欠損症 20. CPT I 欠損症 21. CPT II 欠損症 22. CACT 欠損症 23. 全身性カルニチン欠乏症 24. グルタル酸血症 II 型 |
| 有機酸代謝異常 9. メチルマロン酸血症 10. プロピオン酸血症 11. イソ吉草酸血症 12. メチルクロトニルグリシン尿症 13. HMG 血症 14. 複合カルボキシラーゼ欠損症 15. グルタル酸血症 I 型 16. βケトチオラーゼ欠損症 | 糖質代謝異常 25. ガラクトース血症 内分泌異常 26. 先天性甲状腺機能低下症 (クレチン症) 27. 先天性副腎過形成症 |

HMG: 3-ヒドロキシ-3-メチルグルタル酸, MCAD: 中鎖アシル-CoA 脱水素酵素, VLCAD: 極長鎖アシル-CoA 脱水素酵素, TFP/LCHAD: 三頭酵素/長鎖 3-ヒドロキシアシル CoA 脱水素酵素, CPT: カルニチン・パルミトイルトランスフェラーゼ, CACT: カルニチン・アシルカルニチントランスロカーゼ
 1~24は、質量分析計を用いる検査項目
 赤字は産後発症0331第1号には含まれない検査項目

表2 新生児マススクリーニング検査で発見された患児の数と頻度 (1977~2013 年度)

| 疾患名 | 患児数 | 頻度 |
|----------------------------|--------|-------------|
| 1. フェニルケトン尿症 | 635 | 1/72,200 |
| 2. ホモシスチン尿症 | 206 | 1/222,500 |
| 3. メーブルシロップ尿症 | 90 | 1/509,300 |
| 4. シトルリン血症 I 型* | 5 | 1/374,300 |
| 5. アルギニンコハク酸尿症* | 2 | 1/935,700 |
| 9. メチルマロン酸血症* | 10 | 1/187,100 |
| 10. プロピオン酸血症* | 26 | 1/72,000 |
| 11. イソ吉草酸血症* | 1 | 1/1,871,400 |
| 12. メチルクロトニルグリシン尿症* | 6 | 1/311,900 |
| 14. 複合カルボキシラーゼ欠損症* | 1 | 1/1,871,400 |
| 15. グルタル酸血症 I 型* | 4 | 1/467,900 |
| 17. MCAD 欠損症* | 12 | 1/156,000 |
| 18. VLCAD 欠損症* | 10 | 1/187,100 |
| 19. TFP/LCHAD 欠損症* | 2 | 1/935,700 |
| 25. ガラクトース血症 | 1,220 | 1/37,600 |
| 26. 先天性甲状腺機能低下症 (クレチン症) ** | 14,347 | 1/3,000 |
| 27. 先天性副腎過形成症*** | 1,787 | 1/6,700 |
| その他 | 832 | - |
| 合計 | 19,197 | |

検査開始年度: *平成 23 年度~, **昭和 54 年度~, ***昭和 63 年度~
 出典: 日本マススクリーニング学会ホームページ
 (http://www.jsms.gr.jp/download/13_1_20141203_h25.pdf)

わが国では39の検査機関が「新生児マススクリーニング検査」を行っており、この中で化血研の受託件数は、(公財)東京都予防医学協会に次いで日本で2番目の規模になります(図1)。福岡県、福岡市、北九州市、熊本県、熊本市、佐賀県の6自治体より、合わせて年間7.2万人の新生児の検査を受託しており、1977年からの37年間では300万人を超える新生児の検査を行って多くの要精密児(精密検査が必要な患児疑い児)を発見しています。新生児医療の一翼を担っていることに誇りを感じつつも、

表3 わが国におけるライソゾーム病患者数

| 疾患名 | 患者数 (%) | 疾患名 | 患者数 (%) |
|-------------------------|------------|-----------------------|----------|
| MPS II 型 | 115 (19.4) | Niemann-Pick 病 C 型 | 14 (2.4) |
| Fabry 病 | 104 (17.5) | シアリドーシス | 11 (1.9) |
| Gaucher 病 | 60 (10.1) | MPS VII 型 | 9 (1.5) |
| MPS I 型 | 37 (6.2) | α-マンノシドーシス | 6 (1.0) |
| Pompe 病 | 34 (5.7) | MPS VI 型 | 5 (0.8) |
| MPS IV 型 | 32 (5.4) | Danon 病 | 4 (0.7) |
| セロイドリボフスチノーシス | 27 (4.5) | マルチプルサルファターゼ欠損症 | 2 (0.3) |
| I-cell 病、ムコリビドーシス III 型 | 24 (4.0) | フロシドーシス | 2 (0.3) |
| MPS III 型 | 19 (3.2) | 遊離シアル酸蓄積症 | 2 (0.3) |
| GM2 ガングリオシドーシス | 18 (3.0) | Niemann-Pick 病 A, B 型 | 1 (0.2) |
| GM1 ガングリオシドーシス | 17 (2.9) | Fabry 病 | 1 (0.2) |
| 異染性脳白質ジストロフィー | 17 (2.9) | α-マンノシドーシス | 1 (0.2) |
| ガラクトシアリドーシス | 16 (2.7) | Schindler 病/神崎病 | 1 (0.2) |
| Krabbe 病 | 15 (2.5) | 合計 | 594* |

MPS: ムコ多糖症
 赤字: 日本で治療薬が認可されている疾患 (2015 年 5 月現在)
 出典: 厚生労働省難治性疾患等政策研究事業ライソゾーム病 (ファブリー病を含む) に関する調査研究班 (http://www.japan-lsd-mhlw.jp/lst_ga.html)
 *平成 13 年度のデータ。難病情報センター (<http://www.nanbyou.or.jp/entry/3661>) のホームページ上では、平成 24 年度の患者数 (平成 24 年度医療受給者証保持者数) は 911 人とされている。

要精密児を見つけた場合の即応体制を維持しながら、また適切・迅速・確実な検査をモットーに緊張感の中で日々の検査を行っています。

最後に、現在取り組んでいる新しい検査項目について触れたいと思います。早期発見・早期治療で発症を未然に防止して心身の障害を予防したりQOLの向上を期待できる疾患は未だ数多く残されています。その中で、現在、熊本大学医学部小児科と共同でライソゾーム病の検査法の開発を進めています。ライソゾームとは、私たちの体を作っている細胞の中にある細胞内小器官の一つで、細胞内でいらなくなったタンパク質、脂肪、糖などを分解する役割を担っています。ライソゾームの中には、これらを分解するための酵素が含まれており、この中で例えば、脂肪を分解する酵素がうまく働かないとその脂肪が細胞の中に溜まり、やがて細胞の機能が悪くなって様々な症状を示すようになります。この病態を総称してライソゾーム病と呼びます。異常がある酵素毎に症状は異なり、現在、Fabry病など31の疾患が難病に指定されていますが、この中の8疾患に対して治療薬が認可されています。わが国における疾患別患者数は表3に示すとおりであり、治療薬がありかつ患者数の多い5疾患 (Fabry病、Pompe病、Gaucher病、ムコ多糖症 (MPS) I 型、II 型) を検査すれば、ライソゾーム病患者の6割を発見して治療出来ることとなります。Fabry病とPompe病については既に熊本大学でパイロット検査が始められており、Fabry病については1/8,000程度の頻度であることが明らかにされています。現在見つかった患者数は予測よりも格段に少ないことから、診断されずに埋もれている患者が数多くいると考えられます。確定診断に重要な遺伝子検査についても次世代シーケンサーを用いた方法を開発中であり、酵素学的検査法と併せて早期に完成させ、新生児マススクリーニング検査の新しい検査項目に加えたいと考えています。

私たち化血研は、これからも人体用ワクチンによる予防で「健やかな未来をつくる」、動物用ワクチンで食の安全・安心を守ることで「健やかな未来をつくる」、感染症や友友病の治療薬(血漿分画製剤)で患者とご家族の「健やかな未来をつくる」、そして新生児マススクリーニング検査による疾患の早期発見で子供たちの「健やかな未来をつくる」ことに貢献していきます。

医薬品集発刊!

◇JAPIC「医療用医薬品集2016」CD-ROM付を8月下旬に発刊します

- ・今版から、2分冊にて製作（従来の使いやすさはそのままに、情報量の増加に対応すべく、「医療用医薬品集本文（医薬品情報記載部分）・五十音索引」と「アルファベット索引・薬効別薬剤分類表・薬剤識別コード一覧等」の2分冊にしました。
- ・6月19日付の後発品薬価収載、効能追加等を含む、7月2日入手分までの情報を収載（約21,000製品）
- ・医療用医薬品添付文書情報を有効成分（約2,200成分）ごとにまとめて掲載。約1,400成分については「構造式」も掲載
- ・同一成分内での剤形の違い・製品の違いにより効能・効果が異なる場合はその違いを明記
- ・類似薬選定のための「薬効別薬剤分類表」を収載
- ・前版までは別冊としてご希望者に配布していた「薬剤識別コード一覧」を本誌に掲載
- ・更新情報メールの無料提供
- ・CD-ROM付



◇JAPIC「一般用医薬品集2016」を9月初旬に発刊します

- ・国内流通の一般用医薬品をほぼ全て網羅（約11,000製品収録）。「要指導医薬品」（スイッチ直後品目・劇薬等）も掲載しています。
- ・最新の一般用医薬品添付文書を日本製薬団体連合会の委託を受け収録。
- ・付録には、リスク区分情報、ブランド名別成分比較表、国内副作用報告の状況、重篤副作用疾患別対応マニュアルを収録。



〔お問合せ先〕事務局 業務・渉外担当 (TEL:0120-181-276、FAX:0120-181-461)

7月末発売!

「JAPIC医療用・一般用医薬品集インストール版2015年7月版」

- ◇医療用および一般用医薬品の添付文書情報を収録したWindows対応CD-ROM。（医療用は2015年7月、一般用は2015年6月までのJAPIC入手分を収録）
- ◇製品情報、医薬品集本文データの検索・表示・印刷・データ出力が可能。
- ◇薬価、先発品等/後発品情報、規制区分、剤形、添加物、薬剤識別コード情報なども収録し、さまざまな角度から検索できます。
- ◇完全インストール仕様により、スピーディな検索・結果表示を実現。
- ◇インターネット経由で、最新の添付文書PDFの表示も可能です。
- ◇単品¥13,000 (+税)。年間セット4枚 (7月・10月・1月・4月) ¥23,806 (+税)。



「JAPIC OTC医薬品CD-ROM 2015年7月版」

- ◇一般用医薬品（一部の医薬部外品含む）の添付文書記載情報（2015年6月までのJAPIC入手分）を収録したWindows対応CD-ROM。
- ◇一般用医薬品データの検索・表示・印刷・テキストデータ出力が可能。
- ◇「要指導医薬品」（スイッチ直後品目・劇薬等）も掲載しております。
- ◇検索項目は、成分名、添加物、リスク区分や小児に使える医薬品等。
- ◇インターネット経由で、添付文書PDFの表示も可能です。
- ◇JANコードによる製品直接表示機能も搭載。
- ◇¥3,000 (+税) / 単回。



〔お問合せ先〕事務局 業務・渉外担当 (TEL:0120-181-276、FAX:0120-181-461)

くすりの散歩道

NO.88

徒然なるままに・・・

(一財) 日本医薬情報センター 医薬文献情報担当
鹿庭 正昭 (Kaniwa Masaaki)



1967年(昭和42年)に大学・薬学部入学後、いわゆる「文献(科学論文)」との本格的なおつきあいが始まったのは、1970年、4回生になって学部の講座に配属されてから。そんなのんびり屋の私も、40年を優に超える、文献との長〜いおつきあい。

学部時代、文献情報といえば、直接著者に文献請求をするか、図書館所蔵の専門誌や埃高い蔵書が頼り。その当時のコンピュータは主に大量の実験データの処理マシン。今のように個人用コンピュータ(パソコン)も、インターネットでの文献検索もまだ普及していなかった。配属された講座での私の初仕事は、指導役のドクターコースの先輩の指示に従って、図書館にこもり、めざす文献を求めて専門誌をひたすらチェック。探し当てた文献を当時まだめづらしかった乾式コピーをとる。後は、日本語文献も理解したい4回生が英語やドイツ語で書かれた文献を相手に孤軍奮闘。翻訳マシンはなし。頭の芯がぼおとなるほど、辞書と首っ引きで全文和訳。和訳が完成したところで、講座セミナーで文献紹介。講座の諸先輩方のありがたい指摘をビシバシ受けて、この文献をもとに講座での研究生活が「ヨーイ・ドン」。

それから、無事6年(修士課程修了)。私が国立衛生試験所(国立衛試、現・国立医薬品食品衛生研究所)に就職した1973年(昭和48年)ころは、ガスクロマトグラフ(GC)、質量分析器(MS)、核磁気共鳴装置(NMR)、赤外線吸収スペクトル(IR)などを用いた「機器分析」が一躍注目をあびるようになってきた時代。

第1の転機は、購入されたばかりの大型分析機器「高分解能・磁場型質量分析器」のオペレーター担当になったこと。就職直後、右も左もわからないルーキーに、まさに青天の霹靂の出来事。しかも、お守りの相手は、巨大な図体からついたあだなが「戦艦大和」。その心は、「どれだけまともに動くのか? まともなデータは取れるのか? それとも・・・」。しかも、この高分解能質量分析器は駄々っ子そのもの。高真

空を保つため、オペレーターの毎日は、イオン源の「分解→クリーンアップ→組み立て」+ポンプ類の世話に明け暮れ。そのなかでも、機器メーカー・サービスマンのサポートの下、日本に数台しかない質量分析器のオペレーターながら、当時の最先端分析技術「化学物質の質量分析(マスマスペクトロメトリー)」の基礎から応用まで、機器メーカーから提供されたデータ集、関連文献などを精読、さらに、期待半分の依頼サンプルを通じて実地にトレーニングできたことは、本当にラッキー。その後の私の強みになった。

第2の転機は、国立衛試に入って3年目、新規スタートの「家庭用品」にかかわる仕事に参加できたこと。家庭用品の仕事の1つとして、厚生省(現・厚生労働省)が主宰する「家庭用品による健康被害モニター病院報告制度」では皮膚科、小児科、吸入事故の3分科会で年度ごとに発生した健康被害事例のとりまとめが行われた。そのなかで、臨床医の先生方とおつきあいがスタート。特に皮膚科分科会では、パッチテスト(臨床皮膚科医)、原因製品の化学分析(国立衛試・私)、生物試験(国立衛試・毒性部)、原因製品メーカーへの問い合わせなどを総合した「家庭用品による健康被害の原因化学物質究明システム」を立ち上げ、異分野間でのコラボレーション研究のさきがけとなった。

身近な「?」に敏感に、自分なりの「仮説」を組み立ててみる。文献情報調査、メーカー・業界団体への問い合わせなどで周辺情報をかため、さらに、化学分析、ヒト→動物(in vivo)→培養細胞(in vitro)などの生物試験をうまく組み合わせ、ヒトにおける健康被害事例を精査するなかで、化学物質の健康危険有害性(毒性、ハザード)がヒト健康被害発生にどうつながっていくのかを裏付けていく。私の40年の体験から、「先達、専門家に教えを乞うこと、既知の文献情報を最大限活用することに勝るものなし」。Good Luck!!

最近の話題

「病いの語り」の教育的活用

東京理科大学 薬学部 教授
後藤 恵子 (Goto Keiko)



患者の背景・思いを想像する力

コミュニケーション教育に携わっていることから、患者さんに直接話をする機会があると、つい薬剤師への期待や不満、要望などをつい尋ねてしまいます。期待といってもねえ・と言いながらも、「私」のつらさに人として向き合っていて欲しい」、「業務的な物言いではなく、気持ちのこもった話し方をして欲しい」、「様子や処方せんから適切な配慮をして欲しい」等、本音に触れることがあります。総じて、一般的な説明や対応ではなく、「私」の状況を踏まえた上での対応を望んでいることがわかります。こうした要望に応えるためには、まず患者さんを観察し直接問いかけることから始めるしかありません。ですが、この聞く・聴くということに薬剤師はどうぞも苦手意識があり、何か質問をして患者さんが重い口を開いて答えても、十分傾聴することなく説明に移ってしまう傾向が見受けられます。踏み込むことへのためらいもあると思いますが、患者さんの背景や生活がイメージしにくいことにも起因しているのではないかと考えます。それを解決するにはやはり相手に関心を持ち、相手の立場に立とうとすることにつきるのではないのでしょうか。患者さんの病気や治療に対する独自の考え方（解釈モデル）や置かれた立場が、服薬をはじめとする本人の健康行動に影響を与えるという理解を持つこと、そして鍛えるべきはくすりを飲む患者さんの生活や背景を想像する力ではないのでしょうか。

DIPEx-Japan の健康と病いの語りとは

こうした想像する力を鍛えるために、医療教育に活用されはじめたのが「健康と病いの語り」です。英国オックスフォード大学で作られているDIPEx (Database of Individual Patient Experiences) をモデルに、日本版の「健康と病いの語り」のデータベースを構築し、それを社会資源として活用していくことを目的として作られたウェブサイトです。特定非営利活動法人「健康と病いの語り デイボックス・ジャパン」が管理・運営しています。現在、乳がん、前立腺がん、認知症本人と家族の語り、大腸がん検診の語りなどが公開されています(図1)。疾患ごとに35～50人の多様な体験者やその家族のインタビューを集め、「発見」「治療」「生活」など、視聴者にとって意味ある約25前後のテーマに編集されています。また語り手の年代や立場別に検索出来、ひとり一人の患者さんや家

族の背景や経緯などを知ることも出来ます。病気の診断を受けた時の思いや、治療法を選択する際の迷いや葛藤、病いをどう受け容れ、どのように切り抜けてきたかなど、病気を体験した人でなければ語れない体験が、1～5分程度の語りとして集積されています(図2)。教育者サイドとしても授業の学習目標に応じて語りを選びやすいこともあり、これまでに延べ150件を超える医療系教育に携わる教員からの問い合わせがあったそうです。

東京理科大学における活用例

次に、東京理科大学薬学部で行った「健康と病いの語り」を用いた授業をご紹介します(図3)。

- 学習目標：病気が患者に及ぼす心理的影響に配慮できる。
- 学習対象者：3年生
- 資源：FCさん(仮称)20代で乳がん罹患した女性の5つの語り
 - ・副作用(感覚異常) ・自己評価の低下
 - ・病名で断られる就職
 - ・恋人との別れ ・同世代に伝わらない思い
- 授業方略：事前学習(約30分)+1コマ(90分)
事前学習:事前にFCさんの背景を読み、指定された5つの語りを視聴
授業内
 - 1) 印象に残った言葉をグループ内で報告、共有。
 - 2) 医療者として配慮すべきことについてグループ討議→発表
 - 3) FCさんに対し、近しい存在の者(きょうだい、親、友人等)として手紙を書く
 - 4) (他グループと交換後) グループ内で読後、ベスト手紙を選ぶ
 - 5) ベスト手紙を各グループから紹介、全員で共有

上記のFCさんの語りには、「タキシテール2クール目から手足がしびれてきて、物を落としたり、こんやくの上を歩いているような感じがしたりして、点字ブロックに足を取られて転んだこともあった」、「退院後、おしゃれをしている同世代の友人と会ったり、テレビで女優を見ると、自分との差を感じて、生きているのが辛く、自分の殻に閉じこもっていた」などが含まれています。語る姿、刻々と変化する表情・声のトーンから病いとともにあることが本人の人生にどのような影響をもたらしているかを知ることによって、自分の想像を超えたと所に患者の体験があることに気づかされます。また、自分だったらどうか、自分には何ができるのかと自問自答することで、学生は医療人になることの重みを感じ取っていくように感

最近の話題

じます。FCさんに対し近い人として手紙を書くという課題では、どのような言葉が相手の心に届くのか真剣に悩み、なかなか筆が進まず、結局「FCちゃん、元気ですか？今度ご飯を食べに行きましょう」というような言葉しか出てこなかったり、一步踏み込んで「話してくれてありがとう」と、自分がどう接して良いか分からなかった心の葛藤を正直に伝え、「これからはもっと率直に自分の気持ちを伝えたい、乳がんのことも教えて欲しい」と結んだ手紙などがありました。相手を思い、それゆえに言葉が選びきれない戸惑いの過程や、自分がもらってうれしい手紙がどのようなものかを仲間の手紙に触れて分かることで、病む人を支える関わり方を考えるきっかけにつながったものと思います。

4年次における学習目標は、「患者や家族の持つ価値観が多様であることを認識し、どのような対応が望まれるか討論する」で、乳がん患者さん6名の医療機関や治療選択に関する語りから、患者の価値観の多様性を学び、意志決定に影響をもたらす医療者の関わり方について議論を深めます。同じ語りを視聴しても、学生の印象に残る箇所はそれぞれ異なり、患者のみならず薬学生のなかでもさまざまな価値観があることに気づきます。また、4年間、薬学部で学んだことで、患者よりも医療者に近い立場で論じている自分に気づいたり、薬剤師の対応について触れている語りがないことから、どうすれば患者に役立つ存在になれるのかを、真剣に討論するメンバーも現れます。

5年次には、認知症本人の語りから、認知症になると何も分からなくなるのではなく、本人が一番早く気づき大きな葛藤を抱えることや疾患に対する固定観念から病名に苦しんでいることなどを学んでいきます。また、家族介護者の語りからは、関わり方次第で、認知機能の低下が進んでも穏やかに暮らすことができることなどを理解し、どのような関わり方が良いか、介護者自身のストレスを軽減する方法についても理解を深めていきます。

昨今、くすりの開発をはじめ医療に携わる者の倫理感が問われています。薬を服用する患者さんのことを意識されない学習過程に問題があるように感じています。今後、疾患ごとに疾病と病態、薬理、薬物治療等が順次性をもって学習し、最初の段階でこれから学習する病気にかかった患者の痛みや苦しみ、生活の困難、治療についての思いなどの語りを聴いた上で講義がスタートし、最後にはその患者の語りから起こしたシナリオに基づき模擬患者を養成し、患者対応を学ぶなど、常に患者を意識した学習がなされることが重要と考えます。

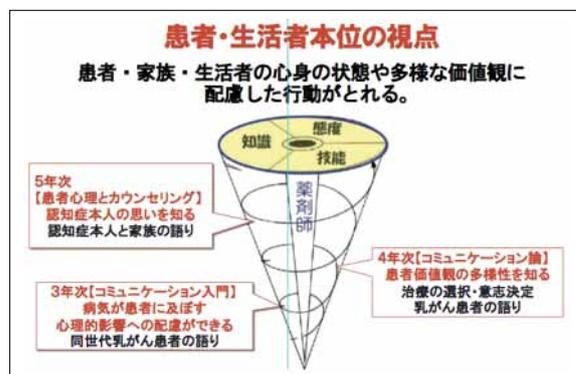
図1 「健康と病いの語りディベックス・ジャパン」websiteのトップページ
http://www.dipex-j.org/



図2 インタビュー協力者の短めのプロフィールと語りの視聴ページ



図3 東京理科大における「健康と病いの語り」使用例



学習目標として、2015年度より導入された改訂版モデル・コアカリキュラムの10の「薬剤師に求められる基本的資質」の2か条目に当たる「患者・生活者本位の視点」を掲げた。

知

っておきたい!

「医薬品を巡る最近の政策」

北里大学大学院薬学研究科 臨床医学(医薬開発学) 准教授
成川 衛 (Narukawa Mamoru)



1. はじめに

最近、医薬品を巡る種々の政策に関する記事を一般紙の紙面で目にする機会が増えたような気がする。これらによって、医療(医薬品を含む)に対する世間の関心が高まることはよいことであると思う。

この種の報道の背景の一つが、政府(安倍内閣)によって取りまとめられた「日本再興戦略」や規制改革の動きにあるものと理解している。本稿では、近年閣議決定された政府の基本方針文書のうち、主として「日本再興戦略」(2013年策定、改訂2014、改訂2015)を眺めながら、医薬品を巡る最近の政策の動きを概説してみたい。

2. 日本医療研究開発機構(AMED)の設立

2015年4月に国立研究開発法人日本医療研究開発機構が設立された。英語名を“Japan Agency for Medical Research and Development”と言ひ、“AMED”と略される。初代理事長には慶應義塾大学医学部長であった末松誠氏が就任し、大手町の読売新聞ビルに居を構えた。

AMEDは、もともとは米国の国立保健研究所(National Institute of Health:NIH)をモデルにして構想されたものであり、2013年6月策定の「日本再興戦略」では「革新的な医療技術の実用化を加速するため、医療分野の研究開発の司令塔機能(「日本版NIH」)を創設する」といった記述がある。その後、2014年5月には健康・医療戦略推進法案及び独立行政法人日本医療研究開発機構法案が成立し、「健康・医療戦略」の閣議決定(同年7月)、AMEDの設立に至った。

AMEDのwebsiteには、(1)医療分野の研究開発及びその環境整備の中核的な役割を担う機関として、これまで文部科学省・厚生労働省・経済産業省に計上されてきた医療分野の研究開発に関する予算を集約し、基礎段階から実用化まで一貫した研究のマネジメントを行うこと、(2)知的財産に関する専門家、臨床研究や治験をサポートする専門スタッフなどの専門人材による研究の支援を行うこと、などを通して、基礎から実用化までの一貫した研究開発の推進及び環境の整備を行うことにより、世界最高水準の医療・サービスの実現や健康長寿社会の形成を目指す旨が紹介されている。

3. 再生医療等の医療技術の実用化の促進

多くの読者の方々をご存知のように、2013年11月に「再生医療等の安全性の確保等に関する法律」及び「薬事法等の一部を改正する法律」が成立し、翌2014年11月に施行された。

「再生医療等の安全性の確保等に関する法律」では、再生医療を国民が安全かつ迅速に受けられるようにすることを目的として、細胞加工物を用いる再生医療を応用した医療技術を実施しようとする医療機関に対し、専門の委員会での事前の審査、国への計画の届出・安全性情報の報告などを義務付ける一方、医療機関が患者から採取した細胞の培養や加工を企業に委託することが可能とされた。この法律は、医療機関において医療として(臨床研究や自由診療という枠組みで)提供される再生医療等の安全性を確保することを趣旨とするものであり、この種の医療を行う医療機関及び細胞培養加工施設を主たる規制対象としている。

一方、「薬事法等の一部を改正する法律」では、従来の「医薬品」及び「医療機器」に加え、新たに「再生医療等製品」という分類が設けられ、再生医療等製品を「業」として製造する製造所の基準等が規定された。また、再生医療等製品は人の細胞などを用いるものであり、個人差などを反映して品質が不均一になることがあるといった特性を踏まえて、そのような再生医療等製品については、有効性が推定され、安全性が認められれば、条件及び期限を付して特別に早期に製造販売承認を与えることを可能とする「早期承認制度」も設けられている。薬事法(現在は「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」)は元々が流通規制であり、再生医療等の「製品」を開発し、その薬事承認を取得して製造販売を行う製造販売業者に対して新たなルールを提示するものである。

再生医療を巡る話題については、2013年「日本再興戦略」において、「薬事法等改正法案(医療機器の民間の第三者機関による認証の拡大、再生医療等製品の条件・期限付での早期承認制度の創設等)、再生医療等安全性確保法案(再生医療等を提供する際の計画の提

出、細胞培養加工の医療機関から企業への委託を可能とする制度の創設等)について、早期の成立を目指す」との記述がある。他方、規制・制度改革との絡みの観点からは、「医薬品、医療機器、再生医療の医療関連産業の市場規模を2020年に16兆円(現状12兆円)に拡大する」といった記述もある。再生医療は、少なくとも現在は特殊な医療分野に属するものであり、その市場が急速に拡大するとは思えないが、これに関連した医療サービスの発展による経済活性化といった側面も意図されているのであろう。

4. 保険給付対象範囲の整理・検討

質の高い医療サービスあるいは先端的な医療技術の提供と医療保険の持続可能性の確保は、両者の良好なバランスの上に成り立つ。もちろん画期的な医薬品の登場が保険財政に好意的に働く場合もある。

「日本再興戦略」改訂2014では、「健康産業の活性化と質の高いヘルスケアサービスの提供」という括りの中に、「保険外併用療養費制度の大幅拡大」という項目が盛り込まれている。そして、アクションプランの中の新たに講ずべき具体的施策として「保険給付対象範囲の整理・検討」が挙げられ、「『必要かつ適切な医療は基本的に保険診療により確保する』という国民皆保険制度の理念を踏まえつつ、多様な患者ニーズの充足、医療産業の競争力強化、医療保険の持続可能性保持等の要請に対してより適切に対応するための施策を実施する」とある。以下に、いくつかの具体的施策の記述をそのまま抜き出した。

○革新的な医療技術等の保険適用の評価時の費用対効果分析の導入等

医療分野のイノベーションの恩恵を受けたいという患者ニーズと医療保険の持続可能性という双方の要請に応えるよう、革新的な医療技術等の保険適用の評価に際し、費用対効果の観点を2016年度を目途に試行的に導入する。また、費用対効果が低いとされた医療技術について継続的に保険外併用療養費制度が利用可能となる仕組み等を検討する。(以下略)

○「日本版コンパシオネットユース」の導入

医療上の必要性の高い未承認薬・適応外薬について、開発・承認を進める一方で、治験の参加基準に満たない患者に対する治験薬へのアクセスを充実させるための仕組み(日本版コンパシオネットユース)の導入に向けた検討を進め、来年度から運用を開始する。

○新たな保険外併用の仕組み(「患者申出療養(仮称)」)の創設

困難な病気と闘う患者からの申出を起点として、安全性・有効性を確認しつつ、国内未承認医薬品等の使用や国内承認済みの医薬品等の適応外使用等を迅速に保険外併用療養として使用できるよう、保険外併用療養費制度の中に、新たな仕組みとして、「患者申出療養(仮称)」を創設し、患者の治療の選択肢を拡大する。同時に、保険収載に向け、実施計画の作成・報告等を求めるものとする。このため、次期通常国会に関連法案の提出を目指す。

2つ目の「日本版コンパシオネットユース」については、厚労省の医薬食品局により薬事(治験)の枠組みで検討がなされている。2014年12月18日開催の薬事・食品衛生審議会薬事分科会において、「人道的見地からの治験への参加について」と題してその取扱いの方向性が示されているので、関心のある方は参照いただきたい。

一方、1つ目と3つ目は、医療保険制度に関連するものであり、保険局で検討が行われている。このうち後者については、医療保険制度改革関連法案(2015年5月成立)により健康保険法等に「患者申出療養」の規定が盛り込まれ、同年7月8日開催の中央社会保険医療協議会(中医協)総会でこの制度に関する論点の提示等がなされた。今後、具体的かつ複雑な議論が進んでいくものと想定される。

なお、保険給付対象範囲に関しては、「規制改革実施計画」(2015年6月閣議決定)においても、市販品(OTC)と類似した医療用医薬品の保険給付範囲の在り方等の見直し、スイッチOTCの更なる推進といった事項が挙げられていることを付記しておく。

5. おわりに

最近の医薬品を巡る政策の動きをいくつか紹介してみたが、これらのいずれについても、「国民の先端的な医療技術へのアクセスや利便性の向上」、「健康産業あるいは経済の活性化」、「医療保険の持続可能性の確保」という3つの論点が付いて回り、また複雑に絡み合っている。政府の大きな方針の下で検討されている課題であるという性格上、思いのほか議論が早く進む可能性もあり、中には同床異夢的な結論になるものもあるかもしれない。いずれにしても、暫し今後の議論の行方を注視していく必要がある。

2015年6月号～8月号の連載コラム「知っておきたい!」にご執筆いただきました 成川 衛 先生には、弊センターの技術顧問を委嘱しております。

❖ JAPICサービスの紹介 ❖

■ 保険請求の請求時の効率化、医薬品と病名のチェックに！ 医薬品と対応病名検索システム“病名ナビ”

本検索サービスは、添付文書の効能効果に対応する標準病名を一覧で参照できるものです。対応する標準病名を「医薬品名」から検索、もしくは対応する効能効果をもつ医薬品名を「病名」から検索するなど、双方向の検索が可能です。

医薬品の効能効果と標準病名の対応の妥当性（評価）は「◎、○、△、×」で表示しており、処方薬に対応する標準病名の選択の際に参考となります。

保険請求の請求時の効率化、医薬品と病名のチェックに是非ご活用下さい。

【評価（◎、○、△、×）について】

「添付文書の効能効果」と対応する標準病名の妥当性については、専門医師、薬剤師による評価を元にランク付けしております。

◎：妥当性が最も高い ○：妥当とする △：妥当性に判断を要する ×：関連はあるが妥当性を欠く

【特長】

- ◆ 医療用医薬品約21,500品目の効能効果に対応するICD10対応電子カルテ用標準病名（約17,000）を関連付け
- ◆ 標準病名は同義・慣用病名からも検索可能（採用同義・慣用病名約35,500。合計約52,500病名。）
- ◆ 完全に独立したシステム。現在ご使用中のシステムにも導入可能
- ◆ 最新添付文書（PDFファイル）を瞬時に表示
- ◆ 医薬品のレセ電コード、病名のレセ電コード付き
- ◆ 主要な情報を網羅：商品名、一般名、規格単位、薬価、会社名、薬効番号、効能効果、標準病名、ICD10、評価、レセ電算コード、用法用量、警告、禁忌等
- ◆ データは毎月更新

【利用方法・料金】（税別）

○医療機関個人利用システム（Web版）

〔データ使用料〕1ユーザ：1,600円／月

○院内共同利用システム（LAN版）

〔初期導入費用〕100,000円

〔データ使用料〕病院200床以上 21,000円／月。 病院200床未満 9,000円／月

※ 特許取得：特許第4516809号（H22.5.21）、特許第5135080号（H24.11.16）

【お問合せ先】事務局 業務・渉外担当（TEL：0120-181-276、FAX：0120-181-461）

■ 検索イメージ

① 商品名入力：(例) タケプロン



② 該当製品リスト



③ (例) タケプロンOD錠の標準病名



「平成27年度JAPICユーザ会」を開催しました

平成27年度JAPICユーザ会を6月9日(火)日本薬学会長井記念ホール(東京)、6月12日(金)ブリーゼプラザ(大阪)で開催いたしました。東京119名、大阪54名の方がご出席くださいました。

JAPICでは設立以来会員制を取り、会費及び事業収益を財源として運営しております。平成25年度より医療機器企業等会員制度を創設し、医療機器の安全性に関する情報等の提供を開始しました。本年度は、本年度中にリリース予定のJAPIC医薬品情報総合検索システムPharmaCrossを中心に、既にご利用いただいているサービスについても改めてご案内させて頂くため、JAPICのサービス全般について、サービス内容を各担当者から紹介いたしました。

- ① JAPIC医薬品情報総合検索システムPharmaCross
- ② JAPICの海外文献学会情報の提供
- 外部データベースを利用した文献検索サービス・海外文献学会カスタマイズ情報 -
- ③ JAPIC-Qサービス、JAPIC-Q医療機器情報サービス、JAPIC-QXサービス
- ④ JAPIC Daily Mail、JAPIC Daily Mail Extra
- ⑤ JAPIC AERSサービスのご紹介 ～JADERデータを中心に～
- ⑥ 添付文書情報

JAPICのサービス全般についてご紹介した今回の事業トピックスは、ユーザ会終了後のアンケートでも概ね好評でしたが、各サービスについてもっと詳しい説明がほしいという意見や、JAPICのサービスは多様化しているのではどのようなサービスがあるか案内がほしいなどの意見を頂きました。また、今年度サービス開始予定のPharmaCrossや、昨年度サービスを開始した海外文献学会カスタマイズ情報などは多くの方に興味を持っていただいたようです。

本年度の講演は、「医薬品医療機器総合機構の最近の安全対策業務について」と題して、独立行政法人医薬品医療機器総合機構 安全第一部長 近藤 恵美子先生にご講演頂きました。平成27年4月1日に行われた組織改編についてやE2B(R3)実装ガイドへの対応状況や最近の主な取り組みについてご講演頂き、安全対策を実施していく上で非常に参考になる内容でした。講演は大変好評で、アンケートでも最近のトピックスがまとまっていてわかりやすかった、大変勉強になったなどの回答が多く寄せられました。

ユーザ会終了後の懇親会では、東京、大阪共に多くの皆様にご参加頂きました。JAPICの職員も直接ユーザの皆様からのご意見を頂く貴重な場となり、ご参加の皆様には感謝申し上げます。お寄せいただいたご意見は、アンケートの回答も合わせ、ユーザの皆様の役に立つサービスを継続して提供していけるように、頂いた課題にも真摯に向き合って参ります。今後ともご支援賜りますようよろしくお願い申し上げます。(池上)



東京会場



大阪会場

「理事会」「評議員会」の概要報告

5月25日(月)に平成27年度第1回理事会、6月25日(木)に平成27年度第1回評議員会をそれぞれ開催いたしました。

今回の主な議題でありました平成26年度事業報告・決算報告においては、事業及び決算ともに概ね順調に推移していることをご報告し、原案どおり承認・議決されました(議題は以下のとおり)。なお、会員の皆様には、平成26年度事業報告書・決算報告書を先般ご送付いたしました。

また、役員の変動について、以下のとおりお知らせいたします。

○「平成27年度第1回(通算第132回)理事会」

5月25日(月) 15:55~16:50、当センター4階会議室

《議題》

1. 役付理事(副会長)の選定について
2. 平成26年度事業報告の承認について
3. 平成26年度決算報告の承認について
4. 公益目的支出計画実施報告の承認について
5. 定時評議員会の招集の決定について
6. 報告事項
 - (1) 維持会員の異動について
 - (2) 代表理事・業務執行理事の職務執行状況の報告について

○「平成27年度第1回(通算第38回)評議員会」

6月25日(木) 16:00~16:50、当センター4階会議室

《議題》

1. 理事の選任について
2. 平成26年度決算報告の承認について
3. 報告事項
 - (1) 平成26年度事業報告について
 - (2) 公益目的支出計画実施報告について

【役員の変動】

《理事(副会長)》

退任: 土屋 文人(前 公益社団法人日本薬剤師会 副会長)

以上 5月24日付

《副会長》

新任: 鈴木 洋史(公益社団法人日本薬剤師会 副会長)

以上 5月25日付

《理事》

退任: 横山 俊二(中外製薬株式会社 常勤監査役)

新任: 大箸 義章(中外製薬株式会社 執行役員信頼性保証ユニット長 兼 医薬安全性本部長)

以上 6月25日付

(※敬称略)

外国政府等の医薬品・医療機器等の 安全性に関する規制措置情報より – (抜粋)

2015年6月1日～6月30日分のJAPIC WEEKLY NEWS (No.505-509)の記事から抜粋

■米FDA

- 一般人へのnaloxoneの供給によるopioidの過量投与予防プログラム—米国、2014年
<http://www.cdc.gov/mmwr/preview/mmwrhtml/mm6423a2.htm?s_cid=mm6423a2_w>
- ZimmerのM/L Taper with Kinectiv Technology ProsthesisのClass I回収：製造残渣量が予想されるよりも高い可能性があるため
<<http://www.fda.gov/Safety/MedWatch/SafetyInformation/SafetyAlertsforHumanMedicalProducts/ucm452012.htm>>
- Maquetの麻酔システムFLOW-iのClass Iリコール：患者用カセットが外れて換気不能になるおそれにより
<<http://www.fda.gov/Safety/MedWatch/SafetyInformation/SafetyAlertsforHumanMedicalProducts/ucm453524.htm>>

■米CDC

- Notes from the Field：合成cannabinoidの使用に関連した健康への悪影響に関する報告の増加—米国、2015年1月～5月
<http://www.cdc.gov/mmwr/preview/mmwrhtml/mm6422a5.htm?s_cid=mm6422a5_w>

■EU・EMA

- SGLT2阻害剤canagliflozin, dapagliflozinおよびempagliflozinに関するArticle 20 procedures
<http://www.ema.europa.eu/docs/en_GB/document_library/Referrals_document/SGLT2_inhibitors__20/Procedure_started/WC500187926.pdf>
- 血漿由来fibrin sealant／止血用製品に関するcore SmPC (医薬品製品概要)に関するガイドライン、採択
<http://www.ema.europa.eu/ema/pages/includes/document/open_document.jsp?webContentId=WC500188566>
- adrenaline (epinephrine) オートインジェクターのArticle 31 referrals (更新情報)
<http://www.ema.europa.eu/docs/en_GB/document_library/Referrals_document/Adrenaline_31/WC500188787.pdf>

■独BfArM

- St. John's wort (Hypericum perforatum) 含有内服用ヒト用医薬品：欧州における製品モノグラフのハーモナイゼーションの導入に関する聴聞会 (Stufe II) について
<http://www.bfarm.de/SharedDocs/Risikoinformationen/Pharmakovigilanz/DE/RV_STP/g-l/johanniskraut2.html>
- codeine：小児および若年者の鎮咳用としての使用制限：CMDh決定事項の実施について
<http://www.bfarm.de/SharedDocs/Risikoinformationen/Pharmakovigilanz/DE/RV_STP/a-f/codein4.html>

■仏ANSM

- ibuprofen, polymyxin, domperidoneを含有する医薬品などについて：CMDhの2015年5月会合からの情報を提供
<<http://www.ansm.sante.fr/S-informer/Actualite/Medicaments-contenant-de-l-ibuprofene-de-la-polymyxine-de-la-domperidone-retour-sur-la-reunion-de-mai-2015-du-CMDh-Point-d-Information>>
- 中枢性睡眠時無呼吸症候群および慢性心不全におけるサーボ制御圧感知型 (ASV) 治療のPhase IV SERVE-HF Studyに関するResMedの更新情報に対するPhilipsの応答
<<http://www.fda.gov/Safety/Recalls/ucm450858.htm>>
- Humalog (insulin lispro) 注射液 (プレフィルドペン) —新たな規格200 IU/mL：投薬過誤リスクを認識すること；医療専門家向けレター
<<http://www.ansm.sante.fr/S-informer/Informations-de-securite-Lettres-aux-professionnels-de-sante/Humalog-Insuline-lispro-solution-injectable-en-stylo-prerempli-nouvelle-concentration-a-200-UI-mL-Attention-aux-risques-d-erreurs-Lettre-aux-professionnels-de-sante>>

■豪TGA

- 新規経口抗凝固薬 - apixaban (Eliquis), dabigatran (Pradaxa), rivaroxaban (Xarelto)：現段階において定期的な血液モニタリングを支持するエビデンスはない
<<https://www.tga.gov.au/alert/new-oral-anticoagulants-apixaban-eliquis-dabigatran-pradaxa-and-rivaroxaban-xarelto>>

JAPIC事業部門 医薬文献情報 (海外) 担当

記事詳細およびその他の記事については、JAPIC Daily Mail (有料) もしくはJAPIC WEEKLY NEWS (無料) のサービスをご利用ください (JAPICホームページのサービス紹介：<<http://www.japic.or.jp/service/>> 参照)。JAPIC WEEKLY NEWSサービス提供を御希望の医療機関・大学の方は、事務局業務・渉外担当 (TEL 0120-181-276) までご連絡ください。

【新着資料案内 平成27年6月1日～平成27年6月30日受け入れ】

図書館で受け入れた書籍をご紹介します。この情報は附属図書館の蔵書検索 (<http://www.japic.or.jp/iyaku/index.html>) の図書新着案内でもご覧頂けます。これらの書籍をご購入される場合は、直接出版社へお問い合わせください。閲覧をご希望の場合は、JAPIC附属図書館 (TEL 03-5466-1827) までお越し下さい。

〈配列は洋書、和書別に書名のアルファベット順、五十音順〉

| 書名 | 著編者 | 出版者 | 出版年月 |
|---|----------------------------|----------------------------------|---------|
| Pharmacopoea Helvetica 11.Ausgabe | Swissmedic | Swissmedic | 2012年 |
| Pharmacopoea Helvetica 11.Ausgabe Supplement11.1 | Swissmedic | Swissmedic | 2013年 |
| The Practitioner's Quick Reference to Nonprescription Drugs | Cynthia Knapp Dlugosz 編 | American Pharmacists Association | 2012年 |
| 医薬品リスク最小化のための実践的アプローチ～CIOMS Working Group Ⅹ報告 | くすりの適正使用協議会BR委員会海外情報分科会 監訳 | レーダー出版センター | 2015年5月 |
| 日本における造血細胞移植 平成26年度全国調査報告書 | | 日本造血細胞移植学会データセンター | 2015年3月 |
| 熱傷用語集 2015 改訂版 (含、用語解説、用語説明) | 日本熱傷学会熱傷用語集改訂検討特別委員会 編 | 日本熱傷学会 | 2015年5月 |
| 標準・傷病名事典 Ver.3.0 | 寺島裕夫 編 | 医学通信社 | 2015年4月 |

情報提供一覧

【平成27年7月1日～7月31日提供】

出版物がお手許に届いていない場合、宛先変更の場合は当センター事務局 業務・渉外担当 (TEL 03-5466-1812) までお知らせ下さい。

| 情報提供一覧 | 発行日等 | JAPIC作成の医薬品情報データベース | 更新日 |
|---|-----------|----------------------------------|---|
| 〈出版物・CD-ROM等〉 | | 〈iyakuSearch〉 Free | http://database.japic.or.jp/ |
| 1. [JAPIC Pharma Report-海外医薬情報] | 7月3日 | 1. 医薬文献情報 | 月 1 回 |
| 2. [添付文書入手一覧] 2015年6月分 (HP定期更新情報掲載) | 7月1日 | 2. 学会演題情報 | 月 1 回 |
| 3. [JAPIC NEWS] No.376 8月号 | 7月31日 | 3. 医療用医薬品添付文書情報 | 毎 週 |
| 〈医薬品安全性情報・感染症情報・速報サービス等〉 (FAX、郵送、電子メール等で提供) | | 4. 一般用医薬品添付文書情報 | 月 1 回 |
| 1. [JAPIC Pharma Report海外医薬情報速報] No.988-992 (旧: 医薬関連情報速報FAXサービス) | 毎 週 | 5. 臨床試験情報 | 随 時 |
| 2. [医薬文献・学会情報速報サービス (JAPIC-Qサービス)] | 毎 週 | 6. 日本の新薬 | 随 時 |
| 3. [JAPIC-Q Plusサービス] | 毎月第一水曜日 | 7. 学会開催情報 | 月 2 回 |
| 4. [外国政府等の医薬品・医療機器の安全性に関する措置情報サービス (JAPIC Daily Mail)] No.3438-3459 | 毎 日 | 8. 医薬品類似名称検索 | 随 時 |
| 5. [JAPIC Weekly News] No.508-512 | 毎週木曜日 | 9. 効能効果の対応標準病名 | 月 1 回 |
| 6. [Regulations View Web版] No.314-315 | 7月17日・31日 | 〈iyakuSearchPlus〉 | http://database.japic.or.jp/nw/index |
| 7. [感染症情報 (JAPIC Daily Mail Plus)] No.599-602 | 毎週月曜日 | 1. 医薬文献情報プラス | 月 1 回 |
| 8. [PubMed代行検索サービス] | 毎月第一・三水曜日 | 2. 学会演題情報プラス | 月 1 回 |
| | | 3. JAPIC Daily Mail DB | 毎 日 |
| | | 4. Regulations View DB (要:ID/PW) | 月 2 回 |
| | | 外部機関から提供しているJAPICデータベース | |
| | | 〈JIP e-infoStreamから提供〉 | https://e-infostream.com/ |
| | | 〈株式会社ジー・サーチJDreamⅢから提供〉 | http://jdream3.com/ |
| | | 〈株式会社日本経済新聞社から提供〉 | http://telecom.nikkei.co.jp/ |

医療用 医薬品集 2016



赤ジャピ40年の伝統を守り
薬剤師を中心とした
専門のスタッフが丁寧に作成しています。

2015年
8月発刊予定



Windows版

CD-ROM収録内容

- 医療用医薬品集
- 一般用医薬品集
- 薬剤識別コード一覧
- 薬価情報
- 後発品の全情報
- 添加物情報
- 最新添付文書画像(PDF)の表示機能付

要インターネット接続。医療用医薬品は週1回、一般用医薬品は月1回更新

本書の特長

- ◆2分冊にて制作
- ◆2015年6月後発品まで収載
- ◆約40年の編集実績による信頼と使いやすさ
- ◆国内流通全医薬品の最新情報に基づき作成
- ◆前版までは別冊としてご希望者に配布していた「薬剤識別コード一覧」を今版から本誌に掲載
- ◆類似薬選定のための「薬効別薬剤分類表」を収載
- ◆更新情報メールの無料提供(要登録)
- ◆CD-ROM付

13,000円(+税) B5判 約4,000頁

一般財団法人 日本医薬情報センター **JAPIC** 編集・発行
丸善出版株式会社 発売

上記書籍の他、電子カルテやオーダーリングシステムに搭載可能なJAPIC添付文書情報関連データ(添付文書データ及び病名データ)の販売も行っております。データの購入希望もしくはお問い合わせはJAPIC (TEL 0120-181-276) まで。

Garden

このコーナーは薬用植物や身近な植物についてのヒトクチメモです。リフレッシュにどうぞ!!

もなるだ

北米原産のシソ科の植物で、学名は *Monarda didyma* だが、その花の形からタイムツバナとかヤグルマハッカなどという日本名で呼ばれることもある。葉に精油が多く、英語で bee balm とも呼ばれ、柑橘類に似た香りがするので、「ベルガモット」と呼ばれることもある。高冷地の田舎の庭に好んで生育している。(ky)



JAPICホームページより
<http://www.japic.or.jp/>

HOME

サービスの紹介

ガーデン

Topページ右下部の「アイコン」からも閲覧できます。